2017度

宮崎県綾町のヤマビル調査結果

てるはの森の会では、2017年度から地球環境基金の助成を受け、環境教育推進のためのヤマビル生息調査・被害対策協働プロジェクトを実施しています。環境教育に適した4～11月にかけて活動しやすい遊歩道環境の整備と入山者のヤマビルへの理解を深めることを目標としています。このプロジェクトでは、ヤマビル研究会を始め宮崎大学の関係者、市民から募集しているヤマビル調査隊と連携して活動しています。（事務局）　※ヤマビル調査隊員 募集中!!

（続）　谷 重和

宮崎県綾町川中の照葉樹林地域を中心にヤマビルの生息密度調査（ヒトおとり法による）を行いました。

6月のヤマビル生息数調査

6月2日、川中自然公園、製材所跡、湧水口などでヤマビルがどの程度生息しているのかを調べました。その結果、製材所跡周辺でわずかに2個体を見るのみでした（ 図1.）

これらの地域は以前からヤマビルが多く、吸血被害がよく発生する場所でしたが、なぜ少なくなったのでしょうか？　実は、今回の調査のほぼ1か月前にこの地域を襲った豪雨でヤマビルの多くは流木・石・土砂などと共に流されてしまった可能性が考えられます。

更には、川中の照葉樹林地域を歩いていますと、腰ぐらいまでの高さの樹木には葉がすべて食べられ、草も生えておらず、食べ尽くされていました。ニホンジカなど多くの野生動物は餌を求めてほかの場所へと移動して、ヤマビルが動物に付着して運ばれてくる機会が大幅に減って、ヤマビルが極端に少なくなってしまったのではないでしょうか？（ 写真1. 2.）

図1. 平成29年度宮崎県綾町地域のヤマビル生息数調査図

写真1. 製材所跡、遊歩道は豪雨の影響で倒木、流木の堆積あり（6月）

写真2. 照葉樹林内　草が野生動物により食べつくされている(6月)

7月のヤマビル生息数調査

7月の調査は18日から21日までの4日間に実施しました。そして、地域を①奥山の照葉樹林地域――川中製材所跡、湧水口、旧ホリキリ、セラピーコース遊歩道など　②奥山に隣接した県有林地域――県道26号線自然遊歩道入口・砂防ダム周辺、千尋下キャンプ場、大口遊歩道など　③県有林からさらに離れた里山・人家周辺――湯ノ谷温泉跡、竹野、尾谷川沿いの人家周辺の3地域に分けてヤマビルの生息状況を比較しました（ 写真3.）

① 奥山の照葉樹林地域

製材所跡周辺ではヤマビルはやや多く見られましたが、その他の地域ではヤマビルは少なく、この地域で捕獲されたヤマビル総数は22個体で、6月よりも増加していました。

② 奥山に隣接した県有林地域

県道26号線の自然遊歩道では普通にヤマビルの生息が確認され、特に、砂防ダム周辺・大口遊歩道などではヤマビルの生息密度が高い状態でした。そして、県有林地域で捕獲されたヤマビル総数は66個体と奥山の照葉樹林地域に比べ3倍の生息数でした。このように、ヤマビルの生息範囲が奥山の照葉樹林地域から県有林地域に移動・拡大し、かつ生息密度もかなり高い地域も見られてきたことに注意していく必要があります。

③ 県有林からさらに離れた里山・人家周辺

ヤマビルの生息数は少ないですが、所々にヤマビルの生息が確認されています。

写真3. 県有林で捕獲されたヤマビル
（ふ化仔ビル～中～大型ヒル）

10月のヤマビル生息数調査

10月の調査は11日から13日までの3日間に奥山の照葉樹林地域――川中製材所跡、湧水口、旧ホリキリ、川中のさえの谷奥などと奥山に隣接した県有林地域――県道26号線の砂防ダム周辺や大口遊歩道などの2地域で実施しました。

① 奥山の照葉樹林地域

川中製材所跡、旧ホリキリなどでの総捕獲数は35個体と7月の調査時に比べると、やや多い生息数でした。しかし、捕獲されたヤマビルの大きさを調べますと、35個体のほとんどは細い、小さな体長5～6mmでこの場所で生まれて数週間後の仔ビルで、野生動物に付着して運ばれてきた10mm以上の中～大型のヤマビルはいませんでした。

② 奥山に隣接した県有林地域

県道26号線の砂防ダム周辺や大口遊歩道などでの総捕獲数は39個体で、奥山の照葉樹林地域と同様に捕獲されたヤマビルの多くは生まれて数週間の仔ビルでした。

以上の様に、宮崎県綾町地域のヤマビルは季節によって中型～大型のヤマビルが多い時期(7月)とふ化仔ビルの占める割合が多い時期（10月）のあることが分かりました。10月の時期に増加するヤマビルは細く、小さいので体に付着してもわからないので、吸血されないように注意してください。

センサーカメラによる野生動物の出現頻度調査

10月3日、奥山照葉樹林地域の川中製材所跡周辺でニホンジカ、イノシシ、テンなどの野生動物の出現が観察されています。

ヤマビルアンケート調査（てるはの森の会で実施）

11月から12月にかけて綾町住民に対してヤマビルに関するアンケート調査を実施し、106名から回答を得ました。結果は以下の通りです。

① 近くの山でヤマビルを見たと答えた人は44%と最も多く、自宅周辺でヤマビルを見たと答えた人も30%いました。

② ヤマビルに吸血されたことのある人は全体の半数近い46%、どこで吸血されたかについては近くの山と答えた人が43%と最も多かったが、自宅周辺でも吸血されたと答えた人が23%いました。①と②から今後、吸血被害の増加が懸念されますので十分に気を付けていく必要があるのではないかと思われます。

③ 以下の様に、多くの野生動物の出現が観察されています。アナグマ(18%)、ニホンジカ(17%)イノシシ（17%）、サル（16%）、タヌキ（13%）、ノウサギ（11%）

④ ここ数年ヤマビルを見たと答えた地域は倉輪、上畑、杢道、北麓、尾立、古屋などでした。

（たに しげかず・千葉県佐倉市）